

5月20日 部分日食の観測

≡ 天文セミナー8503より ≡

5月20日早朝、久しぶりの部分食が、日本全国で見られるはずだったのですが、御存知の悪天候にさまたげられて、ほとんどの地域で観測不能でした。ここでは、太陽黒点データサービスをお願いして、同会機関紙である「天文セミナー」の部分日食特集から、一部転載させていただくことにしました。ごくわずかな幸運にめぐまれた地域で見られた日食のようすです。

なお、太陽黒点データサービスは、主として太陽観測者のために、黒点やプロミネンス等の観測データを扱う機関で、前述の「天文セミナー」を発行しています。1981年7月31日の日食では、国内に組織的観測網をしき、接触時刻測定で成果をあげています。

観測地：札幌市旭山記念公園 布施隆久さん（The FAN Club）の報告より

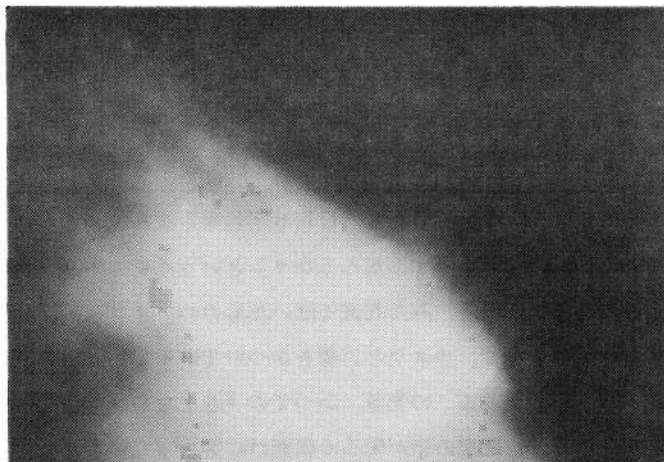
2時半ぐらいまでは雨が降っており、「みんな集合するだろうか？」という不安の中、吉本宅を出発、我々の観測地点の旭山公園に3時半に到着。みんな来てはいたものの、クラ～イ雰囲気はかくせない。我々以外にも物好きがいるようで、カメラと三脚をかついでいく姿が見られる。新聞社等もやって来て、望遠レンズがずらりと並ぶこの光景。かつての「さよなら蒸気機関車」を思わせる。我々にとってのわずかな望みは、北東の空が明るく朝焼けに染まっていることだった。共同通信のカメラマンは、「あっちがなぜ明るいんだ？あっちから出るんじゃないのか。」とさわぐが、クリノメーターで調べるとだいたいテレビ塔の方角から昇るはずである。

さて、日の出、そして食開始時刻となっても太陽の姿はなく、しかし、なぜかあの朝焼けはそのまま見えていた。……寒さをしのぐため、あたりを走り回る者もふえてきた。さらに1時間、そろそろ食最大であるが全く望みがない、と思いきや、天頂付近と北の空には青空が見えているではないか？ よし、もう少しで晴れ間が移動する。待とう……我々The FAN Clubの良い子の願いは天に通じ、新聞社のカメラマンも予想だにできなかった東の空の一点が、突然明るくなってきた。「なんであそこが明るいんだ？」「あれは太陽だ」「いや、あんなところではない」などと問答してる間に、そこから太陽が輝き出したのだった！ 5時40分、誰もがシャッターを切っていたが、私はフィルター交換をしていた。ND400をはずし、ND8だけにしたのだ。（私のカメラには、1/1000秒よりも速いがないため、予想どおり露出オーバーになってしまった。）その後、ちらっと見えてはかくれ、またやっと思えても薄雲がかかっている状態で、食の終わり頃には再び厚い雲の中にかくれていたのだった。

この頃、我々の天頂に見えていた青空のおかげで、旭山公園の西の手稲では日食の後半はずっと観測できていたようで、The FAN Clubの名誉会員である林淳子嬢が連続写真の撮影に成功した。

この後、吉本宅へ戻ったが、「日食見えたよ」と言っても家の人に信じてもらえなかった。豊平川よりも東ではずっとベタ曇りだったようであり、我々が見ることが出来たのはどちらかと言えば奇跡だったのかもしれない。

なお、この日の早朝の天気から察して雨が降ると思われていたが、昼近くには雲ひとつないすがすがしい青空が広がっていたのだった。



1985. 5. 20
5 h 45 m 35 s
ビクセン80mm (f=910mm)
自動追尾 2×テレプラス
ND8使用 露出1/1000秒
ミノルタSRT101
フジクローム50D

わずかなチャンスを
ねらって観望



観測地：銚子市犬吠崎 且尾 衛 さんの報告より

えーい、もうヤケだ。銚子へ行っちゃえ。天気は望みなし。同行者なし。最悪の状況おし
て予定通り19日出発、もちろん着いた時の天気はベタ曇り。俺は日食なんか見に来たんじゃ
ない。銚子にいる友達に会いに来たんだ。バカヤロー。天気がなんだノとにかく(20日)の
朝10時までには自宅へ帰ればいいんだ。この際、ギリギリまで人に会って、寝るのも午前1時
ぐらいにして、朝6時頃銚子を発てばいいな。と、一人で納得。この予定で、友人と昔行きつ
けだった店を出たのが、午前1時。やっぱり曇りなのだ。ワッハッハ、やっぱりダメだ。朝の
出発が早くなければもう少し飲んでいたろう。

こんな気持ちでも心の底には天文の虫がいなければ、朝の恐怖の“Sleeping Drive”も
なかったのに。私は寝る前に空を見てしまったのだ。ナ・ナント晴れている。空には星だらけ。

2時就寝、3時起床のねむい目をこすりながら、犬吠崎へ行った。誰もいない。星はまだ見
えるものの、さっきよりずっと天気が悪くなっている。でも相手は太陽、なんとか、日の出の
写真と接触測定ぐらいは出来るだろう。4時近くなるとポツポツ人が集まってきて、総勢10
名ぐらいだったろうか。中には、浴衣姿の人もまじっていた。朝の散歩がてら、昨日の新聞記
事で見たい日食とやらを見に来た観光客なのだろう。

J J Yのピーピーという音をききながら350mm望遠を東の水平線に向けたのだが、また、
雲がじゃましに来るようだ。とうとう4時20分頃には厚い雨雲におおわれてしまった。東に
見えるのは一すじの光の線だけ。このすじが日の出時刻を迎えるにつれて、ますます明りを増
してゆくだけだった。とうとう日の出をすぎてしまった。ポツポツ帰る人も出てきて、4時50
分に私が器材を片づけた時には、散歩をする人以外は誰もいなかった。仕事さえなければもう
少しねばったのだが、なにしろ眠むたかった。早く帰って少しでもフトンにもぐり込みたかっ
た。4時55分頃だったろうか。雲間に太陽が見えた。ホンの一瞬だったけど、2本のツノを
はやしたような太陽が犬吠崎の灯台の横に見えたのは印象的だった。カメラに修められなかつ
たけど、見ただけで満足する事にした。このあと5時すぎに数秒見えた。後は一度も見えな
かった。

以上2ヶ所が日食がなんとか見られたという報告でした。このほかに見えなかったという報告
が、神奈川県川崎市、大阪府箕面市、兵庫県神戸市、和歌山県日高郡、山口県山口市の5ヶ所
の方から寄せられています。

日食情報センターのスタッフは、東京都稲城市、調布市、山梨県高根町などで日出帯食をとら
えようと待機しましたが、残念ながら見ることはできませんでした。